

**令和5年度 全国学力・学習状況調査  
柏原市における結果概要**

**柏原市教育委員会**

# 全国学力・学習状況調査について

---

## 1. 調査目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. 調査対象学年

小学校： 第6学年 児童  
中学校： 第3学年 生徒

国分中学校は、インフルエンザによる  
学年閉鎖のため後日実施  
(全体集計には含まれていない)

## 3. 調査内容

### (1) 教科に関する調査

小学校： 国語・算数

中学校： 国語・数学・英語

### (2) 生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査

#### ① 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習習慣、生活の諸側面等に関する調査

#### ② 学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

※調査問題・結果資料は、国立教育政策研究所のホームページ内に掲載されています。

調査問題(R5) : <https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

結果資料(R5) : <https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/>

# 結果概要

国分中学校は、インフルエンザによる学年閉鎖のため後日実施(全体集計には含まれていない)

## 《平均正答率》

### 小学校

単位(%)				
平均正答率	柏原市	大阪府	全国	対全国比
国語	66	66	67.2	0.98
算数	60	62	62.5	0.96

(柏原市/全国)

### 中学校

単位(%)				
平均正答率	柏原市	大阪府	全国	対全国比
国語	67	68	69.8	0.96
数学	47	50	51.0	0.92
英語	41	45	45.6	0.90

(柏原市/全国)

#### 《小学校》

国語は、全国を下回ったが大阪府と同率となった。算数は、全国および大阪府を下回った。

#### 《中学校》

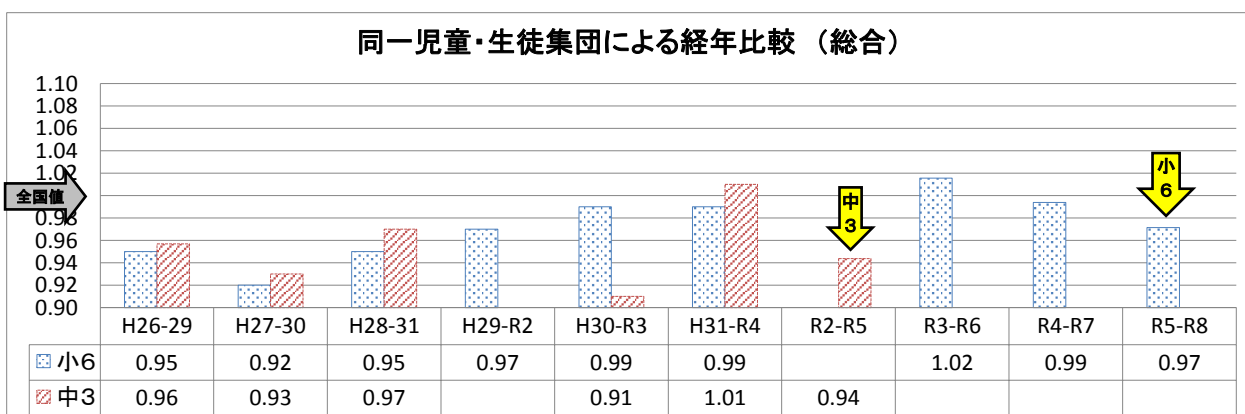
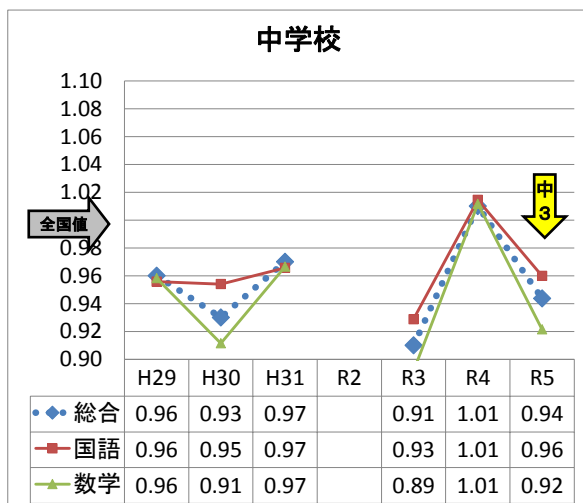
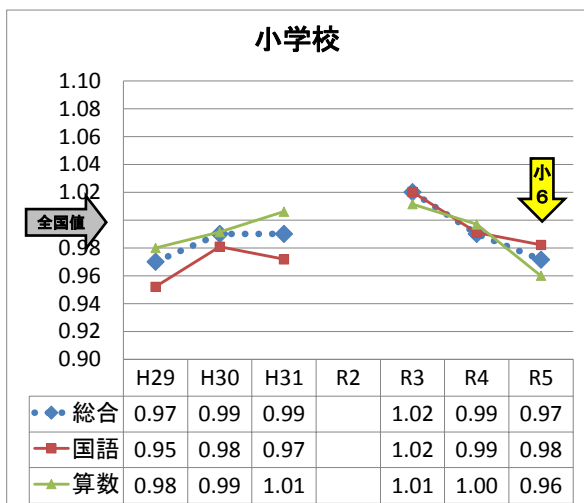
いずれの教科も、全国および大阪府を下回った。

## 《正答率推移(全国比)》

※「総合」は、「国語」および「算数・数学」の平均正答率を合算した値を示している。

※H30年度までは、A(知識)・B(活用)に分かれた問題形式のため、それぞれを合算した値を示している。

※R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施なし。



#### 《正答率推移》

・小学校は、R3年度まで上昇傾向であったが、昨年度から今年度にかけて下降傾向である。

・中学校は、変動が大きく、昨年度は全国を上回っていたが、今年度は下回った。

#### 《同一児童生徒集団による経年比較》

今年度の中学3年生は、小学6年生の調査が未実施のため経年比較ができない。

# 結果概要

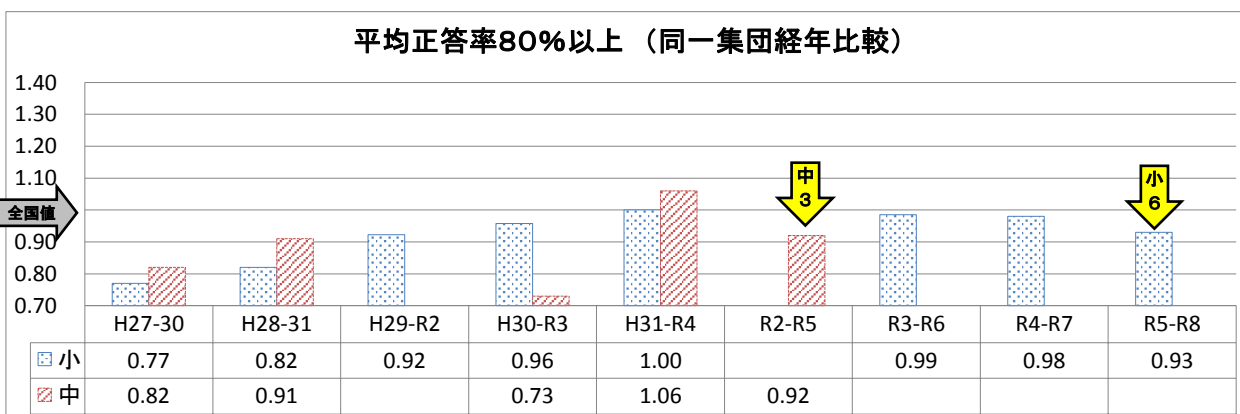
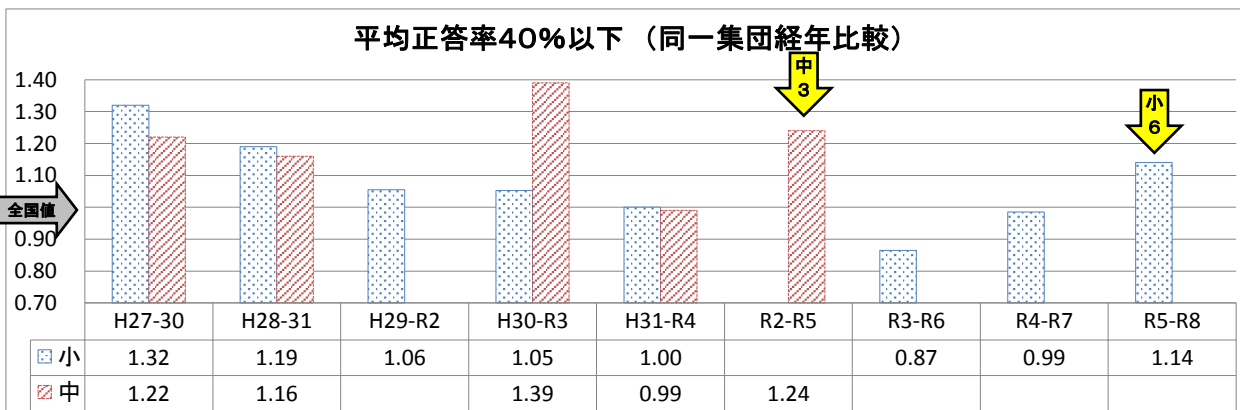
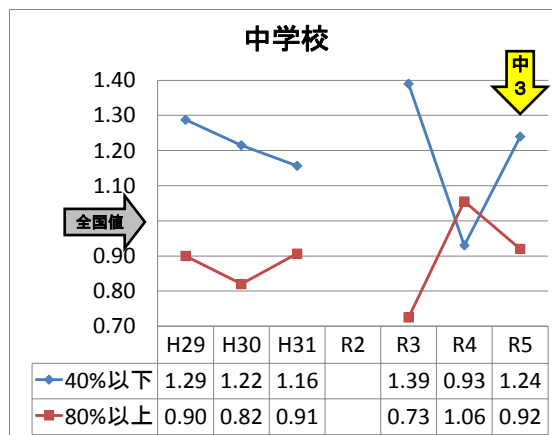
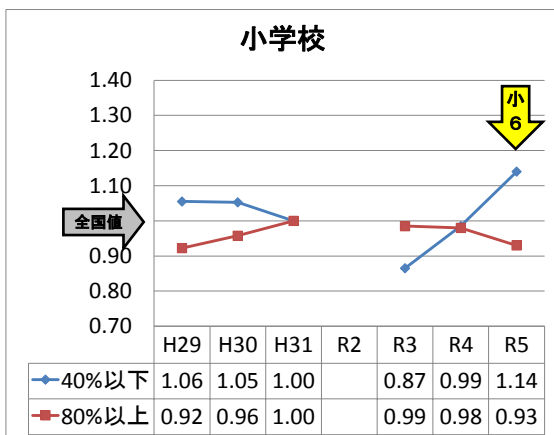
国分中学校は、インフルエンザによる学年閉鎖のため後日実施(全体集計には含まれていない)

## 《平均正答率40%以下および80%以上の割合の推移(全国比)》

※正答率40%以下・80%以上(国語・算数/数学の総合)の児童生徒の割合について、全国を1として表している。

※H30までは、A(知識)・B(活用)に分かれた問題形式のため、それぞれを合算した値を示している。

※R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施なし。



#### 《小学校》

・平均正答率40%以下(低位層)の割合が増加傾向で全国を大きく上回った。一方で、平均正答率80%以上(上位層)の割合は全国を下回ってはいるが、減少幅はそれほど大きくはない。

#### 《中学校》

・平均正答率40%以下(低位層)の割合が増加傾向で全国を大きく上回った。一方で、平均正答率80%以上(上位層)の割合も減少傾向で全国を下回った。

#### 《同一児童生徒集団による経年比較》

今年度の中学3年生は、小学6年生の調査が未実施のため経年比較ができない。

# 小学校【国語】

## 《問題別調査結果》

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			全国差 (柏原-全国)	＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国		
全体			66	66	67.2	▲ 1.2	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に…	70.9	71.0	71.2	▲ 0.3	
		(2)情報の扱い方に…	60.2	62.6	63.4	▲ 3.2	
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0				
	思考力、判断力、表現力等	A話すこと・聞くこと	72.6	70.9	72.6	0.0	
		B書くこと	23.3	24.2	26.7	▲ 3.4	
		C読むこと	70.1	69.2	71.2	▲ 1.1	
評価の観点	知識・技能	67.8	68.6	68.9	▲ 1.1		
	思考・判断・表現	64.5	63.5	65.5	▲ 1.0		
	主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	72.8	72.5	73.6	▲ 0.8		
	短答式	60.9	63.0	62.7	▲ 1.8		
	記述式	49.6	48.4	51.1	▲ 1.5		

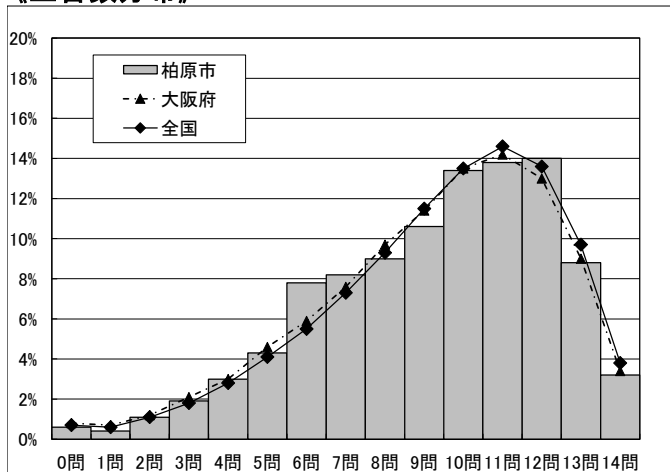
## 《学習指導要領の領域について》

※大阪府の平均正答率と比較し、2ポイント以上高い領域を「良好な領域」、2ポイント以上低い領域を「課題のある領域」としている。

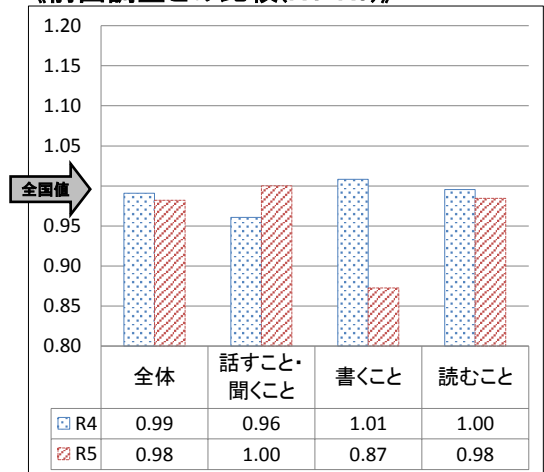
良好な領域	課題のある領域
特になし	(2)情報の扱い方に関する事項

- ▼全体の平均正答率は、全国を1.2ポイント下回っている。
- 「A話すこと・聞くこと」の領域では、大阪府を1.7ポイント上回っている(全国と同等)。
- ▼「(2)情報の扱い方に関する事項」「B書くこと」の領域では、全国をそれぞれ3.2ポイント、3.4ポイント下回っている。

## 《正答数分布》



## 《前回調査との比較(R4-R5)》



※同一集団の経年比較ではない

- 前年度の調査と比較し、「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率(対全国比)が上昇している。
- ▼一方で、「書くこと」の領域の平均正答率(対全国比)が大きく低下している。

# 小学校【国語】

## ○全国と比較して正答率が高い・無解答率が低い問題

問題番号	3	三	
問題の概要	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する		
出題の趣旨	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる		
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	評価	知識・技能 形式 選択式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	60.8	7.1
大阪府	57.6	10.3
全国	57.6	9.5

### 正答例

1

- 1 ア おっしゃった
- 2 ア 申した
- 3 ア おっしゃった
- 4 ア 申した

問題の空欄に入る内容を参考にしてください。  
 ○〇さんが「ア」をもう一度「イ」に入っています。

三 谷さんは学習をふり返り、インクビニールをまとめた敬語の使い方について、ノートにまとめています。次の【谷さんのノートの一部】に入る内容の組み合わせとして最も適切なものを、あとの1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

【谷さんのノートの一部】  
 敬語の使い方について、参考にしてください。  
 ○〇さんが「ア」をもう一度「イ」に入っています。

谷さん こんばんは、いつも私たちの登下校を思ってくれてありがとうございます。今日はお二人から挨拶を頂きました。どうもありがとうございます。お二人は、毎朝七時半から活動されているんですね。大変です。お二人は、毎朝七時半から活動されているんですね。大変です。お二人は、毎朝七時半から活動されているんですね。大変です。

谷さん こんばんは、いつも私たちの登下校を思ってくれてありがとうございます。今日はお二人から挨拶を頂きました。どうもありがとうございます。お二人は、毎朝七時半から活動されているんですね。大変です。お二人は、毎朝七時半から活動されているんですね。大変です。お二人は、毎朝七時半から活動されているんですね。大変です。

谷さん こんばんは、いつも私たちの登下校を思ってくれてありがとうございます。今日はお二人から挨拶を頂きました。どうもありがとうございます。お二人は、毎朝七時半から活動されているんですね。大変です。お二人は、毎朝七時半から活動されているんですね。大変です。お二人は、毎朝七時半から活動されているんですね。大変です。

## ▼全国と比較して正答率が低い問題

問題番号	2	三	
問題の概要	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したもとして適切なものを選択する		
出題の趣旨	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		
領域	情報の扱い方に関する事項	評価	知識・技能 形式 選択式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	57.3	1.7
大阪府	62.0	1.8
全国	62.0	1.6

### 正答例

4

- 1 自分にとって大切な言葉を四角や丸で囲み、運動と栄養素の動きを線でつないで整理している。
- 2 自分にとって大切な言葉を四角や丸で囲み、食品と栄養素の動きを線でつないで整理している。
- 3 自分にとって大切な言葉を四角や丸で囲み、食品と栄養素の動きを線でつないで整理している。
- 4 自分にとって大切な言葉を四角や丸で囲み、運動と栄養素の動きを線でつないで整理している。

【資料3】相田さんが書きこみをしたパンフレットのページ

**栄養素の働き**

規則正しく食事をとることにより、脳が活発に働いたり、元気に活動したりすることができます。ただし、同じものばかり食べたり食べ過ぎると、栄養がたまってしまい、つかれやすくなったりいららなくなったりします。

食品は、栄養素の主な働きによって、下のように、主に三つのグループに分けることができます。

米やパンなどは、主にエネルギー源になります。肉や卵などは、主に体をつくるもとになります。野菜や果物などは、主に体の調子を整えるもとになり、疲労にかりにくくなります。

〈栄養素の主な働きと食品の例〉

- 主にエネルギー源のものになる：米、パン、バナナなど
- 主に体をつくるもとになる：肉、卵、牛乳など
- 主に体の調子を整えるもとになる：野菜、果物など

三 相田さんは、食事の面から健康について考えている友達の話を読んで、「資料3」に興味をもちました。次は、相田さんが「資料3」の内容を整理してまとめた【資料3】です。相田さんは、どのように整理していますか。その説明として最も適切なものを、あとの1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

相田さん 運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だと書かれています。運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だと書かれています。運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だと書かれています。

相田さん 運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だと書かれています。運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だと書かれています。運動は、体力の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だと書かれています。

## ▼全国と比較して正答率が低い・無解答率が高い問題

問題番号	1	二	
問題の概要	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く		
出題の趣旨	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる		
領域	書くこと	評価	思考・判断・表現 形式 記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	23.3	8.2
大阪府	24.2	7.6
全国	26.7	7.1

### (問題文省略)

### 正答例

グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかぐが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。

# 小学校【算数】

## 《問題別調査結果》

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			全国差 (柏原-全国)	＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国		
	全体	16	60	62	62.5	▲ 2.5	
学習指導要領の領域	A数と式	6	66.0	66.8	67.3	▲ 1.3	
	B図形	4	46.0	48.4	48.2	▲ 2.2	
	C測定	0					
	C変化と関係	4	68.6	70.8	70.9	▲ 2.3	
	Dデータの活用	3	62.3	63.8	65.5	▲ 3.2	
評価の観点	知識・技能	9	65.4	67.1	67.2	▲ 1.8	
	思考・判断・表現	7	54.2	55.7	56.5	▲ 2.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	5	54.4	57.1	57.7	▲ 3.3	
	短答式	7	73.7	74.7	74.7	▲ 1.0	
	記述式	4	45.0	46.5	47.3	▲ 2.3	

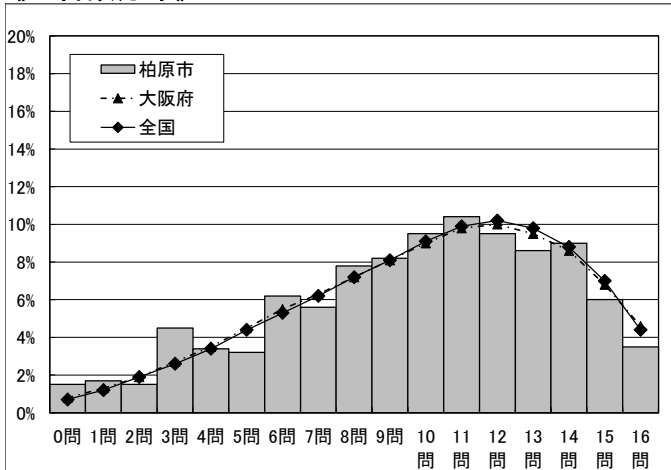
## 《学習指導要領の領域について》

※大阪府の平均正答率と比較し、2ポイント以上高い領域を「良好な領域」、2ポイント以上低い領域を「課題のある領域」としている。

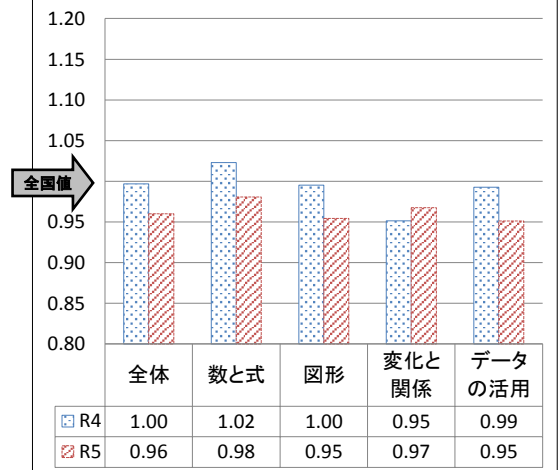
良好な領域	課題のある領域
特になし	B 図形 C 変化と図形

- ▼全体の平均正答率は、全国を2.5ポイント下回っている。
- ▼すべての区分において、全国および大阪府を下回っている。  
特に「Dデータの活用」の領域では、全国を3.2ポイント下回っている。

## 《正答数分布》



## 《前回調査との比較(R4-R5)》



※同一集団の経年比較ではない

- ▼全国や大阪府と比較し、上位層(12～16問程度)の割合が小さい。
- 前年度の調査と比較し、「変化と関係」の領域の平均正答率(対全国比)が上昇している。
- ▼一方で、全体およびそれ以外の両機の平均正答率(対全国比)は低下している。



# 小学校【算数】

## ▼全国と比較して正答率が低い問題

問題番号	4	(1)			
問題の概要	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ				
出題の趣旨	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる				
領域	変化と関係	評価	知識・技能	形式	選択式

正答例 ウ、エ

問題番号	4	(4)			
問題の概要	二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ				
出題の趣旨	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる				
領域	データの活用	評価	知識・技能	形式	選択式

正答例 イ

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	41.2	2.6
大阪府	46.3	2.5
全国	46.0	2.4

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	58.6	4.7
大阪府	62.6	5.0
全国	64.6	4.9

## ▼無解答率が高い問題

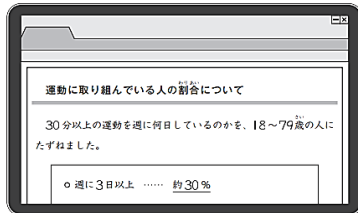
問題番号	4	(3)			
問題の概要	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く				
出題の趣旨	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる				
領域	データの活用	評価	思考・判断・表現	形式	記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	54.1	14.6
大阪府	53.7	14.3
全国	56.2	13.8

正答例 6年生のグラフでは「1日」の人数が2番目に多く、5年生と6年生を合わせたグラフでは「1日」の人数が1番目に多いです。

4

あいさんは、毎日健康に過ごすためには、運動、食事、休養・すいみんが必要であることを学習しました。そこで、インターネットで運動について調べると、下のような記事を見つけました。

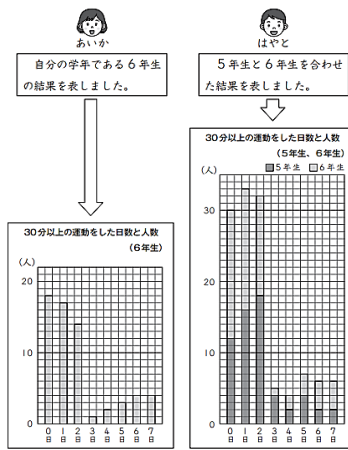


1日に30分以上の運動を、週に3日以上している人の割合は約30%なのですね。

(1) 30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでのの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 100人をもとにした0.3人の割合
- イ 100人をもとにした3人の割合
- ウ 100人をもとにした30人の割合
- エ 10人をもとにした3人の割合
- オ 30人をもとにした1人の割合

(3) あいさんたちは、5年生と6年生に運動カードを配って調べた結果をポスターにのせるために、30分以上の運動をした日数と人数をグラフに表すことにしました。



(4) のぞみさんたちも、30分以上の運動をした日数と人数を調べた結果について話し合っています。

5年生も6年生も、30分以上の運動をした日数が2日以下の人が多いですね。

2日以下の人は、運動があまり好きではないのでしょうか。

そこで、のぞみさんたちは、5年生と6年生に30分以上の運動をした日数と、運動が好きかどうかについてのアンケート調査を行い、結果を下のようにまとめました。

		30分以上の運動をした日数		合計
		2日以下	3日以上	
運動	好き	85	26	111
	あまり好きではない	10	2	12
合計		95	28	123

あいさんたちは、左の2つのグラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。

どちらのグラフも「0日」「1日」「2日」の人数が多いということが同じですね。

でも、2つのグラフをくわしく見ると、ちがうところもありますね。

そこで、あいさんたちは、日数に着目して、2つのグラフのちがうところを、次のようにまとめました。

【「0日」についてまとめたこと】  
「0日」に着目すると、次のようになります。  
6年生のグラフでは「0日」の人数が1番目に多く、5年生と6年生を合わせたグラフでは「0日」の人数が3番目に多いです。

【「0日」についてまとめたこと】と同じように、「1日」に着目してまとめると、次のようになります。  
下の[...]の中に、「6年生のグラフ」「5年生と6年生を合わせたグラフ」「番目」の3つの言葉と数を使って書きましょう。

【「1日」についてまとめたこと】  
「1日」に着目すると、次のようになります。

※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

表を見ると、30分以上の運動をした日数が2日以下の人の中でも、運動が好きな人のほうが、あまり好きではない人より多いことがわかりますね。

委員会で、みんなが運動を楽しめるような活動を考えてみましょう。

30分以上の運動をした日数が2日以下の人の中でも、運動が好きな人のほうが、あまり好きではない人より多いことは、左の表の中にあるどの数とどの数を見ればわかりますか。

下のアからエまでのの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 26と2
- イ 85と10
- ウ 85と26
- エ 111と12



# 中学校【国語】

国分中学校は、インフルエンザによる学年閉鎖のため後日実施(全体集計には含まれていない)

## 《問題別調査結果》

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			全国差 (柏原-全国)	＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞	
			柏原市	大阪府	全国			
全体			15	67	68	69.8	▲ 2.8	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使いに関する事項	2	65.3	68.9	67.5	▲ 2.2	
		(2)情報の扱い方に関する事項	2	60.4	61.6	63.4	▲ 3.0	
		(3)我が国の言語文化に関する事項	3	71.3	72.3	74.7	▲ 3.4	
	思考力、判断力、表現力等	A話すこと・聞くこと	3	78.2	79.5	82.2	▲ 4.0	
		B書くこと	2	60.7	62.1	63.2	▲ 2.5	
		C読むこと	4	60.9	60.8	63.7	▲ 2.8	
評価の観点	知識・技能	7	66.5	68.3	69.4	▲ 2.9		
	思考・判断・表現	9	66.6	67.3	69.7	▲ 3.1		
	主体的に学習に取り組む態度	0						
問題形式	選択式	7	71.0	71.6	73.1	▲ 2.1		
	短答式	4	61.9	65.2	65.6	▲ 3.7		
	記述式	4	64.1	64.6	68.0	▲ 3.9		

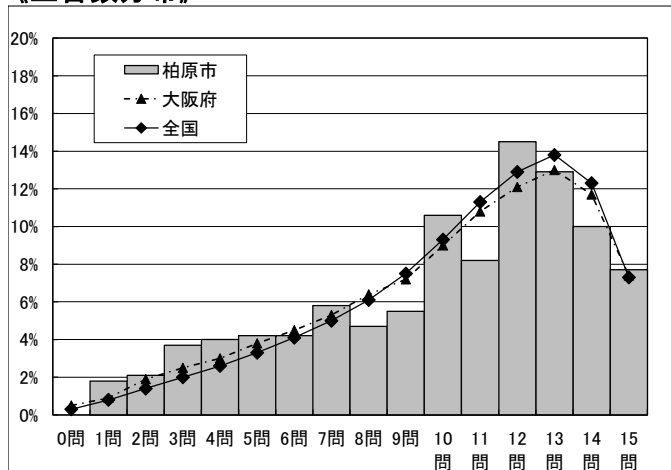
## 《学習指導要領の領域について》

※大阪府の平均正答率と比較し、2ポイント以上高い領域を「良好な領域」、2ポイント以上低い領域を「課題のある領域」としている。

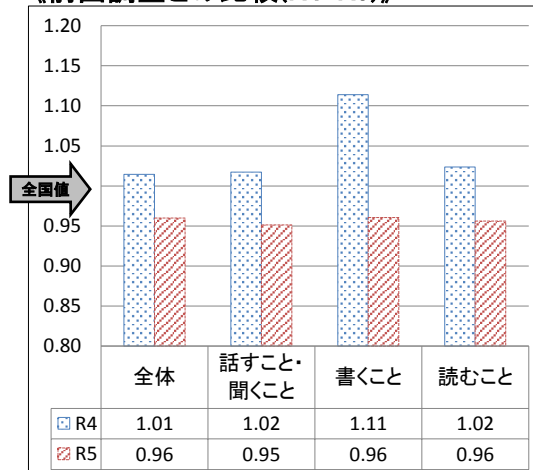
良好な領域	課題のある領域
特になし	(1)言葉の特徴や使いに関する事項

- ▼全体の平均正答率は、全国を2.8ポイント下回っている。
- ▼すべての区分において、全国および大阪府を下回っている。  
特に「話すこと・読むこと」の領域では、全国を4.0ポイント下回っている。

## 《正答数分布》



## 《前回調査との比較(R4-R5)》



※同一集団の経年比較ではない

- ▼全国や大阪府と比較し、下位層(1~5問程度)の割合が大きく、中位層(8~11問程度)の割合が小さい。
- ▼前年度の調査と比較し、全体および各領域の正答率(対全国比)は低下している。

○全国と比較して正答率が高い問題

問題番号	3	—			
問題の概要	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する				
出題の趣旨	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる				
領域	書くこと	評価	思考・判断・表現	形式	選択式

正答例 4

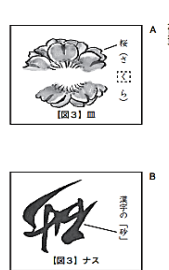
	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	55.7	0.8
大阪府	54.7	0.5
全国	54.3	0.6

▼全国と比較して正答率が低い・無解答率が高い問題

問題番号	3	四			
問題の概要	『「判じ絵」の解説の面白さ』と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く				
出題の趣旨	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる				
領域	書くこと	評価	思考・判断・表現	形式	記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	65.7	14.2
大阪府	69.5	11.4
全国	72.1	10.2

正答例  
候補=A  
(【図3】は、)真ん中が消えている桜が描かれている。「さくら」という言葉の真ん中の「く」を消して解説すると、食事で使う「皿」という意味になる。



③ 山田さんは、問題の設問に「判じ絵」を選択して解説をした。その理由を述べよう。

④ 「判じ絵」を消すことになった理由を明確にしよう。

1 「判じ絵」を知ったきっかけを明確にしよう。

2 「判じ絵」が現代に伝わった理由を明確にしよう。

3 「判じ絵」を消すことになった理由を明確にしよう。

4 「判じ絵」を消すことになった理由を明確にしよう。

「判じ絵」について 山田 光一

1. はじめに  
学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」は具体的にどのようなものがあるか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べた。

2. 調査方法  
学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3. 調査結果  
■「判じ絵」とは何か  
「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解説して楽しむものである。(ア)ただし、【図1】のように、描かれているものと意味しているものが異なるため、解説する際には、「判じ絵」こと、つまり、知っていることと「謎」に似て「謎」である。(イ)言ってみれば、なぜか謎やクイズのようなものである。(ウ)また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていた。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵とつながりの深い文化として定着していった。(オ)さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることがある。

■「判じ絵」の解説の面白さ  
「判じ絵」の解説の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。  
【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解説すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

【図3】は、

▼無解答率が高い問題

問題番号	4	三			
問題の概要	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く				
出題の趣旨	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる				
領域	読むこと	評価	思考・判断・表現	形式	記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	47.0	23.0
大阪府	47.4	22.5
全国	50.0	20.7

正答例  
「よるづのこと」を「笠、竿、策、籠、筆、箱、筒、箸。」というように具体的に書いて、翁が竹でどのようなものを作っていたのかが分かるようにしている。

④ 石井さんは、問題の設問に、「竹取物語」を読み、そのなかで、学校図書館で、現代語で書かれた「竹取物語」を見つけ、その面白さについて、自分の考えを伝える文章を書いた。その理由を述べよう。

③ 「竹取物語」の「よるづのこと」の表現について、古典と比較して書く。その理由を述べよう。

1 「よるづのこと」の表現について、古典と比較して書く。その理由を述べよう。

2 「よるづのこと」の表現について、古典と比較して書く。その理由を述べよう。

3 「よるづのこと」の表現について、古典と比較して書く。その理由を述べよう。

4 「よるづのこと」の表現について、古典と比較して書く。その理由を述べよう。

# 中学校【数学】

国分中学校は、インフルエンザによる学年閉鎖のため後日実施(全体集計には含まれていない)

## 《問題別調査結果》

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			全国差 (柏原-全国)	＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国		
	全体	15	47	50	51	▲ 4.0	
学習指導要領の領域	A数と式	5	60.1	63.2	63.0	▲ 2.9	
	B図形	3	30.3	33.4	33.2	▲ 2.9	
	C関数	4	48.9	49.5	51.2	▲ 2.3	
	Dデータの活用	3	39.6	45.0	48.5	▲ 8.9	
評価の観点	知識・技能	10	51.8	55.1	55.7	▲ 3.9	
	思考・判断・表現	5	37.4	39.6	41.6	▲ 4.2	
	主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	4	42.6	45.8	45.3	▲ 2.7	
	短答式	6	58.0	61.3	62.6	▲ 4.6	
	記述式	5	37.4	39.6	41.6	▲ 4.2	

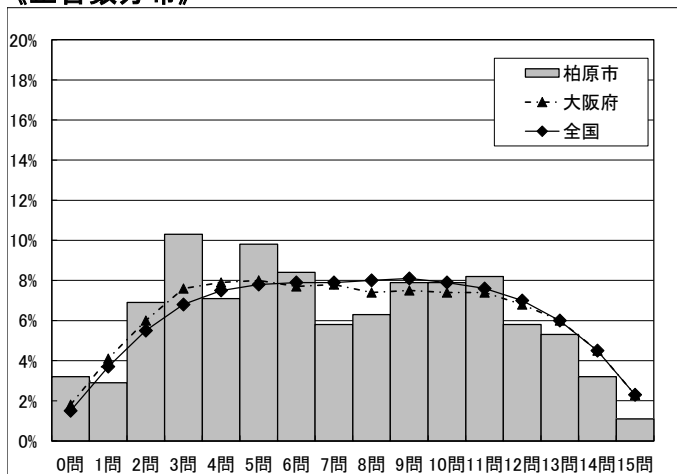
## 《学習指導要領の領域について》

※大阪府の平均正答率と比較し、2ポイント以上高い領域を「良好な領域」、2ポイント以上低い領域を「課題のある領域」としている。

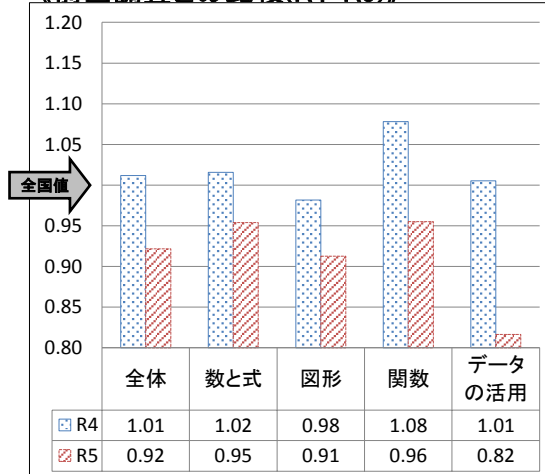
良好な領域	課題のある領域
特になし	A 数と式 B 図形 D データの活用

- ▼全体の平均正答率は、全国を4.0ポイント下回っている。
- ▼すべての区分において、全国および大阪府を下回っている。特に「Dデータの活用」の領域では、全国を8.9ポイント下回っている。

## 《正答数分布》



## 《前回調査との比較(R4-R5)》



※同一集団の経年比較ではない

- ▼全国や大阪府と比較し、下位層(0~6問程度)の割合が大きく、上位層(12~15問程度)の割合が小さい。中位層の割合も小さく、上位層と下位層の2極化の傾向が見られる。
- ▼前年度の調査と比較し、全体および各領域の正答率(対全国比)は低下している。

# 中学校【数学】

国分中学校は、インフルエンザによる学年閉鎖のため後日実施(全体集計には含まれていない)

## ▼全国と比較して正答率が低い・無解答率が高い問題

問題番号	5				
問題の概要	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める				
出題の趣旨	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる				
領域	データの活用	評価	知識・技能	形式	短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	31.9	15.3
大阪府	43.6	12.8
全国	46.1	11.0

5 ある市の中学生の水泳大会における女子50m自由形に出場した40人の記録を調べた。調べた結果を、次の累積度数を含めた度数分布表に整理します。

女子50m自由形の記録の「ア」には最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数が入ります。「ア」に入る値を求めなさい。

女子50m自由形の記録

階級(秒)	度数(人)	累積度数(人)
以上	未満	
27.00 ~ 28.00	3	<input type="checkbox"/>
28.00 ~ 29.00	2	<input type="checkbox"/>
29.00 ~ 30.00	4	ア
30.00 ~ 31.00	11	<input type="checkbox"/>
31.00 ~ 32.00	8	<input type="checkbox"/>
32.00 ~ 33.00	6	<input type="checkbox"/>
33.00 ~ 34.00	3	<input type="checkbox"/>
34.00 ~ 35.00	3	<input type="checkbox"/>
合計	40	

正答例

問題番号	7	(2)			
問題の概要	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する				
出題の趣旨	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				
領域	データの活用	評価	思考・判断・表現	形式	記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	24.3	29.8
大阪府	28.2	27.3
全国	33.6	22.8

7 イチョウの木の大部分の葉が黄色に変わった最初の日を黄葉日といいますが、一花さんと啓太さんは、黄葉日以前と比べるとだんだん遅くなってきている傾向にあることをニュースで知り、二人が住む地域の黄葉日があるのか気になりました。そこで、二人が住む地域の黄葉日を調べたところ、1961年から2020年までの60年分の記録がありました。

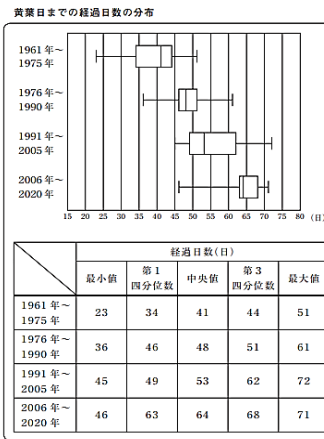
二人は、黄葉日の傾向を調べるために、各年の黄葉日を9月30日からの経過日数で表すことにしました。このとき、経過日数は10月1日が1日となり、10月31日は31日、11月1日は32日となります。そして、二人は次のような表にまとめました。

各年の黄葉日

年	黄葉日	経過日数(日)
1961	10月23日	23
1962	11月10日	41
1963	11月10日	41
1964	11月13日	44
1965	11月12日	43
...	...	...
2019	12月10日	71
2020	12月4日	65

二人は、上の表を見て、経過日数が年によって大きくなったり小さくなったりしていることに気づきました。そこで、60年分の経過日数を何年かごとのまとまりで分けて箱ひげ図で表し、それぞれの分布の傾向を比較することにしました。

次のページの黄葉日までの経過日数の分布は、15年ごとのまとまりとして1961年～1975年、1976年～1990年、1991年～2005年、2006年～2020年の4つに分けてまとめたものです。



(2) 二人は、前ページの箱ひげ図を見て、話し合っています。

一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなってきている傾向がありそうですね。」  
 啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」  
 一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

正答例

1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。

## ▼全国と比較して無解答率が高い問題

問題番号	6	(3)			
問題の概要	はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する				
出題の趣旨	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる				
領域	数と式	評価	思考・判断・表現	形式	記述式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	37.5	29.0
大阪府	40.0	28.0
全国	40.9	24.7

(3) 夏希さんは、7ページの図1の「2をかける」のかける数「2」は変えずに、「3をたす」のたす数「3」を4の倍数である「4」や「8」に変えれば、計算結果がいつでも4の倍数になると考えました。そして、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にける数が2、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる」と予想しました。

そこで、夏希さんは、はじめの数として入れる整数をnとして、次の図3をかき、下のように計算しました。

夏希さんの計算

はじめの数として入れる整数をnとすると、はじめの数に2をかけた数は $n \times 2$ 、4をたした数は $n + 4$ と表される。計算結果は、 $n \times 2 + (n + 4) = 2n + n + 4 = 3n + 4$

(問題文一部省略)



計算結果が $3n + 4$ となることから、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にける数が2、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる」という予想は成り立たないことがわかります。

上の夏希さんの計算をもとに考えたとき、はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつならば、計算結果はいつでも4の倍数になると予想できますか。「必ずしもになる」という形で書きなさい。

正答例

はじめの数にける数が3、たす数が4ならば、計算結果はいつでも4の倍数になる。

# 中学校【英語】

国分中学校は、インフルエンザによる学年閉鎖のため後日実施(全体集計には含まれていない)

## 《問題別調査結果》

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			全国差 (柏原-全国)	＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国		
全体		17	41	45	45.6	▲ 4.6	
学習指導要領の領域	(1)聞くこと	6	52.6	57.4	58.4	▲ 5.8	
	(2)読むこと	6	45.4	50.2	51.2	▲ 5.8	
	(3)話すこと[やり取り]	0					
	(4)話すこと[発表]	0					
	(5)書くこと	5	22.1	24.8	23.4	▲ 1.3	
評価の観点	知識・技能	9	46.5	51.2	51.5	▲ 5.0	
	思考・判断・表現	8	34.9	38.7	38.8	▲ 3.9	
	主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	12	49.0	53.8	54.8	▲ 5.8	
	短答式	3	28.5	31.7	30.1	▲ 1.6	
	記述式	2	12.4	14.6	13.5	▲ 1.1	

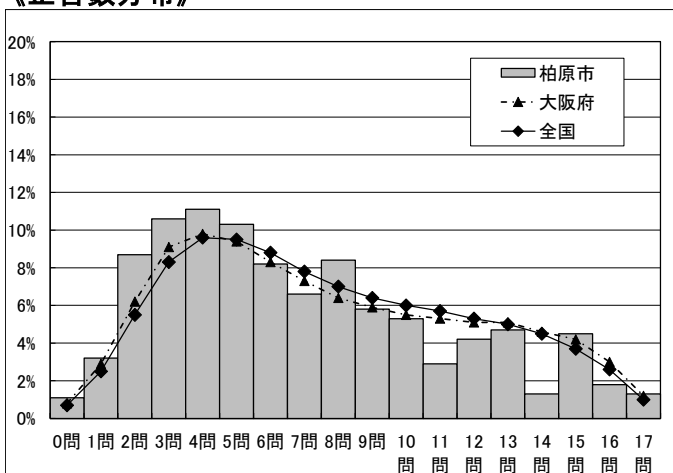
## 《学習指導要領の領域について》

※大阪府の平均正答率と比較し、2ポイント以上高い領域を「良好な領域」、2ポイント以上低い領域を「課題のある領域」としている。

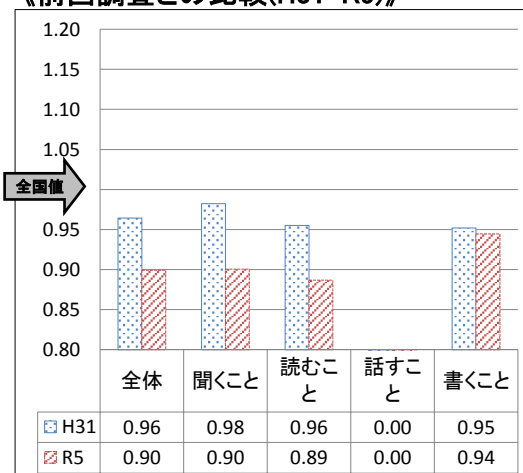
良好な領域	課題のある領域
特になし	(1)聞くこと (2)読むこと (5)書くこと

▼全体の平均正答率は、全国を4.6ポイント下回っている。  
▼すべての区分において、全国および大阪府を下回っている。  
特に「聞くこと」「読むこと」の領域では、全国をそれぞれ5.8ポイント下回っている。  
（「書くこと」の領域は、1.3ポイント下回っている）

## 《正答数分布》



## 《前回調査との比較(H31-R5)》



※同一集団の経年比較ではない

▼全国や大阪府と比較し、下位層(0～5問程度)の割合が大きく、上位層(11～17問程度)の割合が小さい。  
▼4年前の調査と比較し、全体の正答率(対全国比)は低下している。  
特に「聞くこと」「読むこと」の領域で大きく低下しているが、「書くこと」の領域では概ね同程度である。

# 中学校【英語】

国分中学校は、インフルエンザによる学年閉鎖のため後日実施(全体集計には含まれていない)

## ▼全国と比較して正答率が低い問題

問題番号	1	(1)	
問題の概要	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する		
出題の趣旨	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる		
領域	聞くこと	評価	知識・技能 形式 選択式

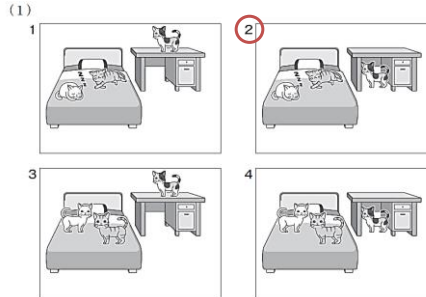
	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	69.1	0.0
大阪府	77.7	0.2
全国	79.0	0.1

### 1 (放送問題)

話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

(1) Look at this picture. There are three cats. You can see a cat under the desk. And the other cats are on the bed. They are sleeping.

正答例



## ▼無解答率が高い問題

問題番号	8	(2)	
問題の概要	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く		
出題の趣旨	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる		
領域	書くこと	評価	思考・判断・表現 形式 記述式


	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	18.2	30.1
大阪府	20.8	32.4
全国	19.5	29.3

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

正答例

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



問題番号	9	(2)	
問題の概要	メールの英文を依頼する表現に書き換える		
出題の趣旨	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる		
領域	書くこと	評価	知識・技能 形式 短答式

	正答率(%)	無解答率(%)
柏原市	27.7	26.4
大阪府	28.9	26.3
全国	29.0	24.5


(2) 次の英文は、ある生徒が文書作成ソフトを使って、スピーチコンテスト(speech contest)についてスミス先生(Mr. Smith)宛てに書いた【メール文の下書きの一部】です。送信する前に友達に相談したところ、友達から【コメント】をもらいました。【コメント】にしたがって、下線部を書き直しなさい。

正答例

【メール文の下書きの一部】

Dear Mr. Smith,  
How are you?  
We have a speech contest next Friday.  
The speech contest starts at 10:00.  
You have to come to the speech contest.

【コメント】

 この英文は、依頼する表現に修正したほうがよいと思う。



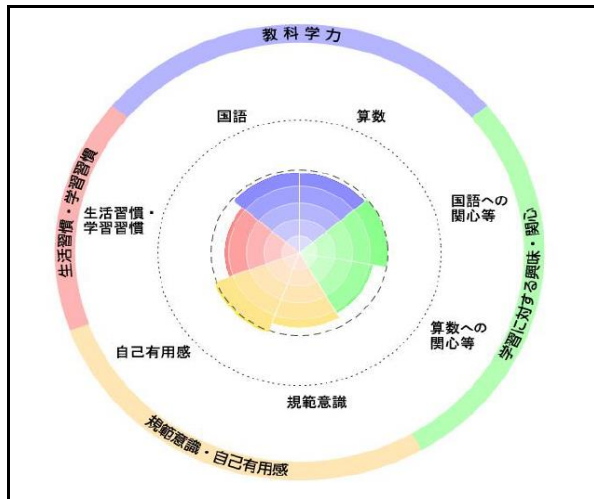
## 児童・生徒質問紙調査《概要》

### 全国学力・学習状況調査結果チャート

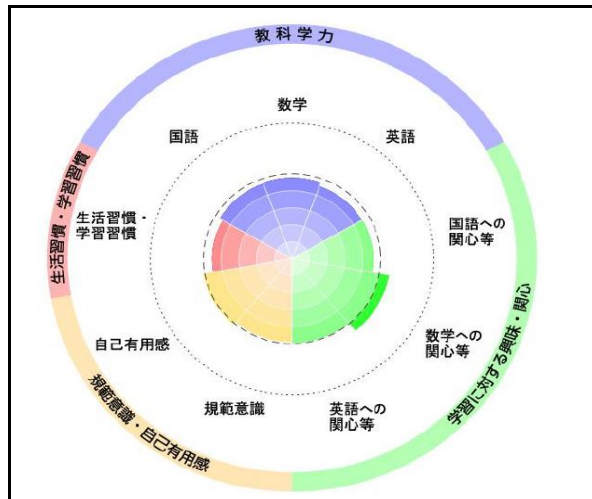
(教科に関する調査および児童生徒質問紙調査の結果を全国値を基準に図示したもの)

※全国平均は破線(---)部分、柏原市平均は色つき部分

小学校(全国基準)



中学校(全国基準)



### 児童・生徒質問紙の回答状況《概要》

#### 【基本的生活習慣等】

○いずれの項目(朝食、就寝や起床時間)でも、8~9割程度の児童生徒が肯定的な回答をしている。

#### 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】

○ほとんどの項目で、8~9割程度の児童生徒が肯定的な回答をしている。

#### 【学習習慣、学習環境等】

▼家で自分で計画を立てたり、平日・休日ともに学校以外で勉強をしている時間が少ない(対全国)。

平日：小学校の5割程度の児童が1時間未満

休日：小学校の6割程度の児童、中学校の5割程度の生徒が1時間未満

▼本を読んだり借りたりするために、学校や地域の図書館に行く機会が少ない(対全国)。

小学校の7割程度の児童、中学校の8割程度の生徒が月1回未満

▼新聞を読む機会が少ない(対全国)。

8割程度の児童生徒が、ほとんどまたは全く読まない(月1回未満)

#### 【ICTを活用した学習状況】

○9割程度の児童生徒が、PC・タブレットなどのICT機器が勉強の役に立つと思っている。

▼授業中にPC・タブレットなどのICT機器を使用する機会が少ない(対全国)。

3割程度の児童生徒が週1回未満(全国は1割程度)

▼授業以外(平日)で、PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使うことが少ない(対全国)。

4~5割程度の児童生徒が全く使っていない(全国は3割程度)

#### 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

○ほとんどの項目で、7割程度の児童生徒が肯定的な回答をしている。

▼自分の考えをより良く発表するために工夫をしたり(小)、話し合う活動で自分の考えを深めたり広げたり(中)することに課題がある(対全国)。

▼学習した内容を次の学習につなげたり、ほかの学習にいかしたり(小)することに課題がある(対全国)。



# 児童・生徒質問紙調査《質問項目一覧 ～全国との比較～》

- ①全国「◎」+10以上 「○」+5以上 「▽」-5以下 「▼」-10以下 「-」調査なし  
 ②経年「◎」+ 5以上 「○」+3以上 「▽」-3以下 「▼」- 5以下 「-」調査なし 「新」新規項目のため比較なし  
 ・ 肯定的回答について比較（一部時間等による比較、※印で詳細を記載）。  
 ・ 「×」は選択肢の内容をふまえ、比較を行っていない。

## 【基本的な生活習慣等】

小	中	内容	①全国との比較		②経年比較		
			小	中	小	中	前回
1	1	朝食を毎日食べていますか					R4
2	2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか					R4
3	3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか					R4

質問番号が塗りつぶされているもの（緑色）  
 教科の平均正答率との相関関係が  
 指摘されている項目（国立教育政策研究所）

## 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】

小	中	内容	①全国との比較		②経年比較		
			小	中	小	中	前回
4	4	自分には、よいところがあると思いますか					R4
5	5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか					R4
6	6	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか				◎	H31
7	7	将来の夢や目標を持っていますか					R4
8	8	人が困っているときは、進んで助けていますか					R4
9	9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか					R4
10	10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか				○	R4
11	11	人の役に立つ人間になりたいと思いますか					R4
12	12	学校に行くのは楽しいと思いますか					R4
13	13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか				○	R4
14	14	友達関係に満足していますか			新	新	-
15	15	普通の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか			新	新	-

## 【学習習慣、学習環境等】

小	中	内容	①全国との比較		②経年比較		
			小	中	小	中	前回
16	16	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	▼	▽		▽	R4
17	17	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）※1時間以上	▼		▼		R4
18	18	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）※1時間以上	▼	▼	▼	▼	R4
19	19	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含む）	×	×	×	×	R3
20	20	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）※30分以上	▽		▽		R4
21	21	休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行きますか ※月1回以上	▽	▽	▼		H31
22	22	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）※100冊以上			▽	▼	R4
23	23	新聞を読んでいますか ※月1回以上	▽	▽			R4
24	24	読書は好きですか		▽		▼	R4

## 【部活動】

小	中	内容	①全国との比較		②経年比較		
			小	中	小	中	前回
-	25	学校の部活動に参加していますか	-	×	-	×	H31
-	26	普段（月曜日から金曜日）、平均して何日学校の部活動に参加していますか	-	×	-	×	-
-	27	学校の部活動で、普段（月曜日から金曜日）活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動を	-	×	-	×	H31
-	28	学校の部活動で、土曜日や日曜日など学校が休みの日に活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか	-	×	-	×	-

## 【地域や社会に関わる活動の状況等】

小	中	内容	①全国との比較		②経年比較		
			小	中	小	中	前回
25	29	今住んでいる地域の行事に参加していますか			◎	○	R4
26	30	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	▽	▽	新	新	-
27	31	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか				○	H31
28	32	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか		▽		○	H31

## 【ICTを活用した学習状況】

小	中	内容	①全国との比較		②経年比較		
			小	中	小	中	前回
29	33	前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか ※週1回以上	▼	▼	▼		R4
30	34	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか					R4
31	35	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）※使っているか	▼	▼	新	新	-

## 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

小	中	内容	①全国との比較		②経年比較		
			小	中	小	中	前回
32	36	前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	▽		▼		R4
33	37	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか			○	▽	R4
34	38	前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか			◎		R4
35	39	前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか					R4
36	40	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか		▽	◎	▽	R4
37	41	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	▽			▼	R4
38	42	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか	▽		▼	▽	H31

# 児童・生徒質問紙調査《質問項目一覧 ～全国との比較～》

## 【総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳】

小	中	内容	①全国との比較		②経年比較		
			小	中	小	中	前回
39	43	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	▼	▽	○		R4
40	44	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	▽	▽	◎		R4
41	45	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか			○		R4
42	46	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	▽			▼	R4

## 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)】

小	中	内容	①全国との比較		②経年比較		
			小	中	小	中	前回
43	47	国語の勉強は好きですか	▽	▽			R4
44	48	国語の勉強は大切だと思いますか				▼	R4
45	49	国語の授業の内容はよく分かりますか				▼	R4
46	50	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか					R4
47	51	【小】国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいますか			新	新	—
48	52	【小】国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか 【中】国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫していますか			新	新	—
49	53	【小】国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けていますか 【中】国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか		▽	新	新	—
50	54	【小】国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか 【中】国語の授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえていますか			新	新	—

## 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(算数・数学)】

小	中	内容	①全国との比較		②経年比較		
			小	中	小	中	前回
51	55	算数・数学の勉強は好きですか		○			R4
52	56	算数・数学の勉強は大切だと思いますか					R4
53	57	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか				▽	R4
54	58	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか				▽	R4

## 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(英語)】

小	中	内容	①全国との比較		②経年比較		
			小	中	小	中	前回
55	59	英語の勉強は好きですか		▽		▽	R3
56	60	英語の勉強は大切だと思いますか	▽		新	○	H31
—	61	英語の授業の内容はよく分かりますか	—	—	—	▽	H31
—	62	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	—	—	—	—	H31
57	63	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか 【小】これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどのICT機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど) 【中】これまで、学校の授業やその他の学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど)			新	▼	H31
58	64	【小】これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか	▽			▽	R3
59	65	家庭学習の課題(宿題)として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか			新	新	—
—	66	前年度までに受けた授業では、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	—	▽	—	▼	H31
—	67	前年度までに受けた授業では、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	—	▽	—	▽	H31
—	68	前年度までに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	—	▽	—	—	H31
—	69	前年度までに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	—		—	◎	H31
—	70	前年度までに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	—	▽	—	—	H31
—	71	前年度までに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか	—	▽	—	—	H31
—	72	前年度までに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	—	▽	—	—	H31

## 【各教科に関する調査の解答状況】

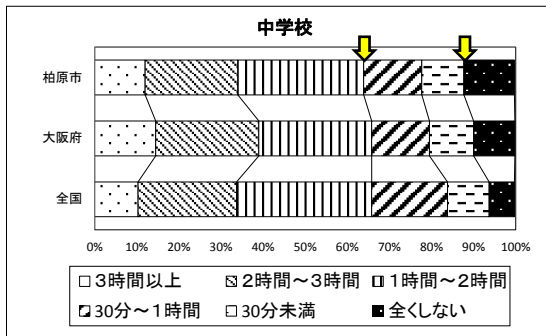
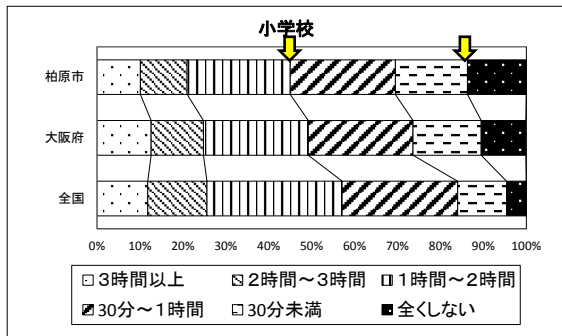
小	中	内容	①全国との比較		②経年比較		
			小	中	小	中	前回
国1	国1	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか				▼	R4
国2	国2	解答時間は十分でしたか(国語)	×	×	×	×	R4
算1	数1	【小】今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか 【中】今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか		▽	▼	▼	R4
算2	数2	解答時間は十分でしたか(数学)	×	×	×	×	R4
—	英1	今回の英語の問題では、まとまりのある文章を書く問題がありました。その問題について、どのように解答しましたか	—		—		—
—	英2	解答時間は十分でしたか(英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」)	—	×	—	×	H31
—	話1	今回の英語の問題では、聞いたことについてまとまりのある内容を話す問題がありました。その問題について、どのように解答しましたか	—		—		—
—	話2	解答時間は十分でしたか(英語「話すこと」)	—	×	—	×	—

# 児童・生徒質問紙調査 《平均正答率との相関関係が指摘されている項目について》

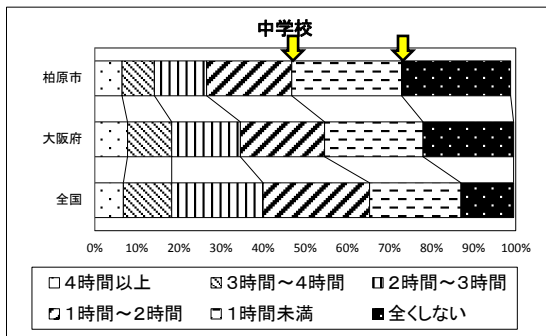
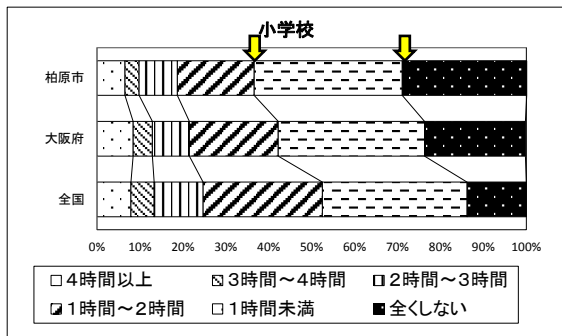
※全国と比較して課題が見られる項目を中心に記載している。

## 【学習習慣、学習環境等】

- (17) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



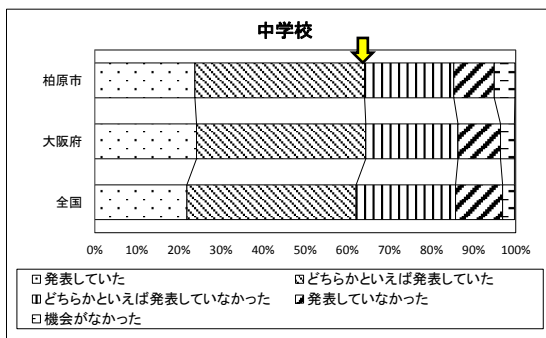
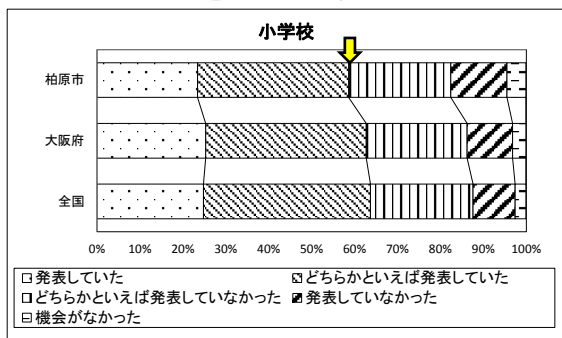
- (18) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



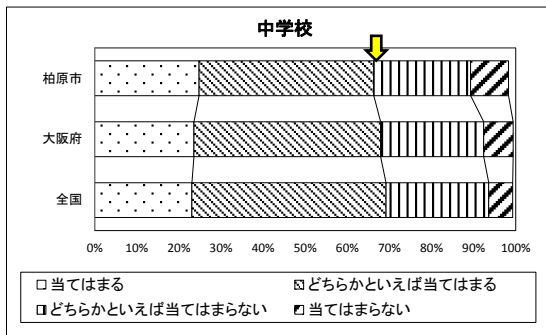
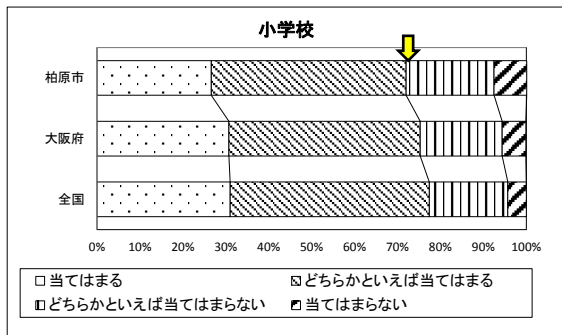
▼平日は、小学校の5割程度の児童が、授業以外の勉強時間が1時間未満である。  
 ▼休日は、小学校の6割程度の児童、中学校の5割程度の生徒が、勉強時間が1時間未満である。  
 ▼平日休日ともに、授業以外で勉強を全くしない児童生徒の割合が全国と比較して大きい。  
 ※クロス集計(市)において、(18)の回答で最も平均正答率が高い項目は「3~4時間」であった(4時間以上ではない)。

## 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

- (32)(36) 前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



- (37)(41) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

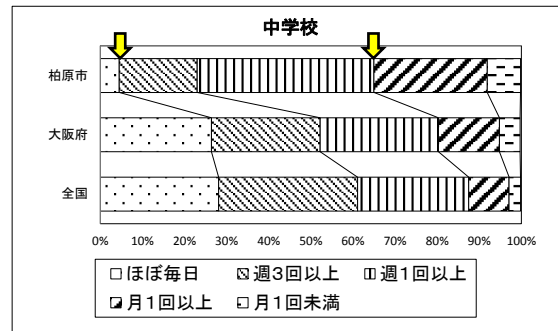
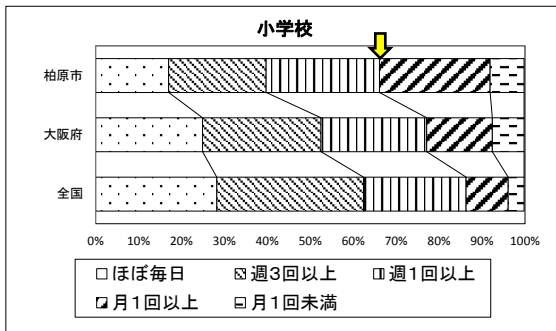


○他の質問も含めてほとんどの項目で、7割程度の児童生徒が肯定的な回答をしている。  
 ▼小学校において、自分の考えをよりよく発表するために工夫を行った児童の割合は、全国と比較して5.1ポイント小さい。また、学習した内容を次の学習につなげることができている児童の割合は、全国と比較して5.4ポイント小さい。

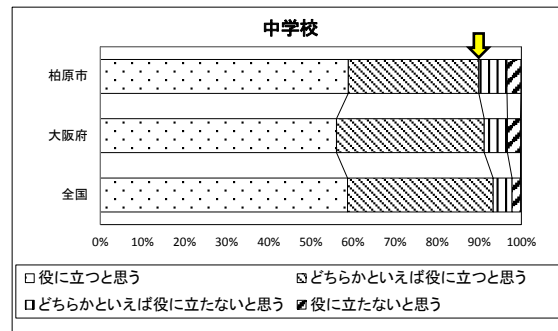
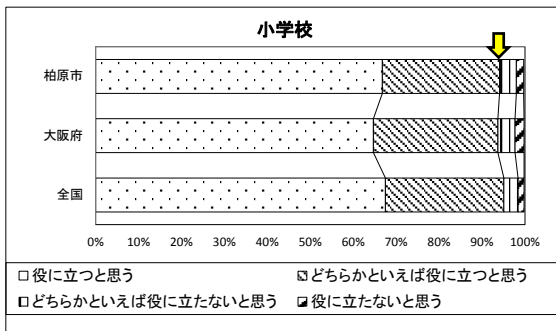
# 児童・生徒質問紙調査 《ICTを活用した学習状況について》

## 【ICTを活用した学習状況】

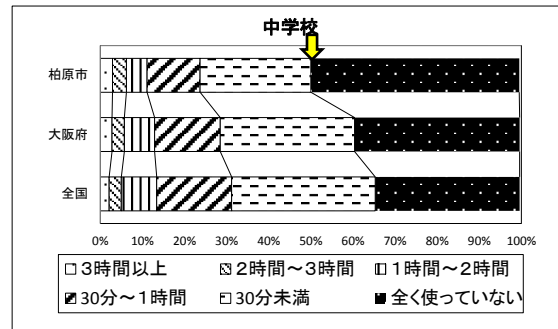
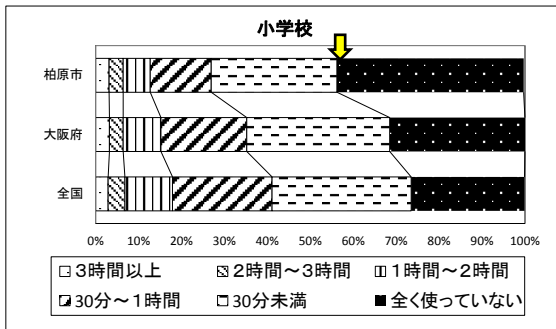
(29)(33) 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



(30)(34) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つかと思いますか



(31)(35) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)



○9割程度の児童生徒が、PC・タブレットなどのICT機器が勉強の役に立つと思っている。  
 ▼授業中のICT機器の使用について、3割程度の児童生徒が週1回未満(全国は1割程度)である。中学校では、「ほぼ毎日」と回答した生徒の割合は、府や全国と比較して20ポイント以上小さい。  
 ▼授業以外(平日)で、PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使うことが少なく(対全国)、4~5割程度の児童生徒が「全く使っていない」と回答している。  
 ※ICTを活用した学習状況に関する質問項目は、教科の平均正答率との高い相関関係は指摘されていない。  
 ※活用状況については、端末の種類や管理状況等をふまえて検証する必要がある。



## 《本年度の結果概要》

国分中学校は、インフルエンザによる学年閉鎖のため後日実施(全体集計には含まれていない)

### ①平均正答率について

※全国値を1とした数値

校種・教科		H29	H30	H31(R1)	R3	R4	R5	目標値
小学校	国語	A	0.98	0.99	0.97	1.02	0.99	1.00 以上
		B	0.92	0.97				
	算数	A	0.99	0.99	1.01	1.01	1.00	1.00 以上
		B	0.96	0.99				
中学校	国語	A	0.97	0.97	0.96	0.93	1.01	1.00 以上
		B	0.94	0.93				
	数学	A	0.98	0.97	0.97	0.89	1.01	1.00 以上
		B	0.94	0.87				

※H31(R1)年度からA問題とB問題が一体化。理科と英語は4年ごとの調査のため省略。

### ②児童生徒質問紙より

#### 【基本的な生活習慣等】【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等】

○基本的な生活習慣、達成感・規範意識・自己有用感等に関する項目については、肯定的な回答をする児童生徒の割合が大きい(全国とも同等)。

#### 【学習習慣、学習環境等】

▼家で自分で学習の計画を立てたり、学校以外で勉強をしている時間が少ない。

▼学校や地域の図書館を活用したり、新聞を読んだりする機会が少ない。

#### 【ICTを活用した学習状況】

○9割程度の児童生徒が、ICT機器が勉強の役に立つと思っている。

▼一方で、学校での授業および学校外でICT機器を勉強のために使う機会が少ない。

#### 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組み状況】

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況については、ほとんどの項目で7割程度の児童生徒が肯定的に回答しており、各教科の授業改善が図られている。

▼しかしながら、発表を工夫したり、対話的な活動により考えを深めたり広げたりすること、学習内容を次の学習につなげたり、他の学習にいかしたりすることについては、全国と比較して課題が見られる。

#### 昨年度、課題と捉えていた項目について

【基本的な生活習慣等】 ゲームをする時間、SNSや動画視聴をする時間が長い

⇒今年度は該当する質問項目が削除されたが、「勉強のために使う機会が少ない」ことから同様の課題があると想定される。

【家庭学習、学習環境等】 学校外で勉強する時間が短い(4～6割が休日に1時間未満)

【ICTを活用した学習状況】 授業で使用する機会が少ない、学校外で勉強に機会が少ない

⇒今年度も同様の傾向があり、引き続き課題である。

## 《今後の取組み》

- ・本調査の結果及び分析内容を市域全体で共有し、学校は自校の実態に応じた分析に基づいた取組みを行う。
- ・学力向上推進委員会で掲げる「思考力・判断力・表現力の育成～主体的に学び、自ら考え、その考えや思いを表現できる子どもを育てる」を基盤に、市の方向性や各学校の取組み内容の共有、実践発表等に基づいた授業づくりの研究を推進する。
- ・とりわけ「複数の情報から必要な情報を集約する」「必要な情報に基づき自分の考えを表現する」活動を授業に取り入れることを意識する。
- ・特に今年度は、学力向上推進委員会を各学校の主体的な研修の場とし、情報発信や情報交換にとどまるのではなく、自校の取組みを発信する機会を多く設ける。
- ・ICT機器については、学力向上推進委員会やICT教育推進リーダー会議において効果的な活用方法を共有し、特に児童生徒自身の活用を推進する。ただし、端末の特性や保管状況などの環境もふまえ、「必要な時に効果的に活用する」ことを意識した活用をめざす。

## 《家庭にお願いすること》

### ①基本的な生活習慣の定着

- ・発達段階に応じた適切な睡眠を取るよう促し、適切な生活リズムを意図的につくる。
- ・朝ごはんを食べるように促し、学校での学習の質の向上につなげる。

### ②家庭学習・主体的な学びへの支援

- ・発達段階に応じて家庭学習の適切な時間を定め、学習習慣を定着させる。
- ・宿題だけでなく、興味関心に基づき、子どもが主体的に家庭でも学習できるように支援する。

### ③スマートフォンやPC、ゲーム等の使用について

- ・スマートフォンやPC、ゲーム等の使用状況を把握し、時間や使い方について適切なルールを決める。
- ・タブレット端末等のICT機器を活用した学びができるように支援する。